

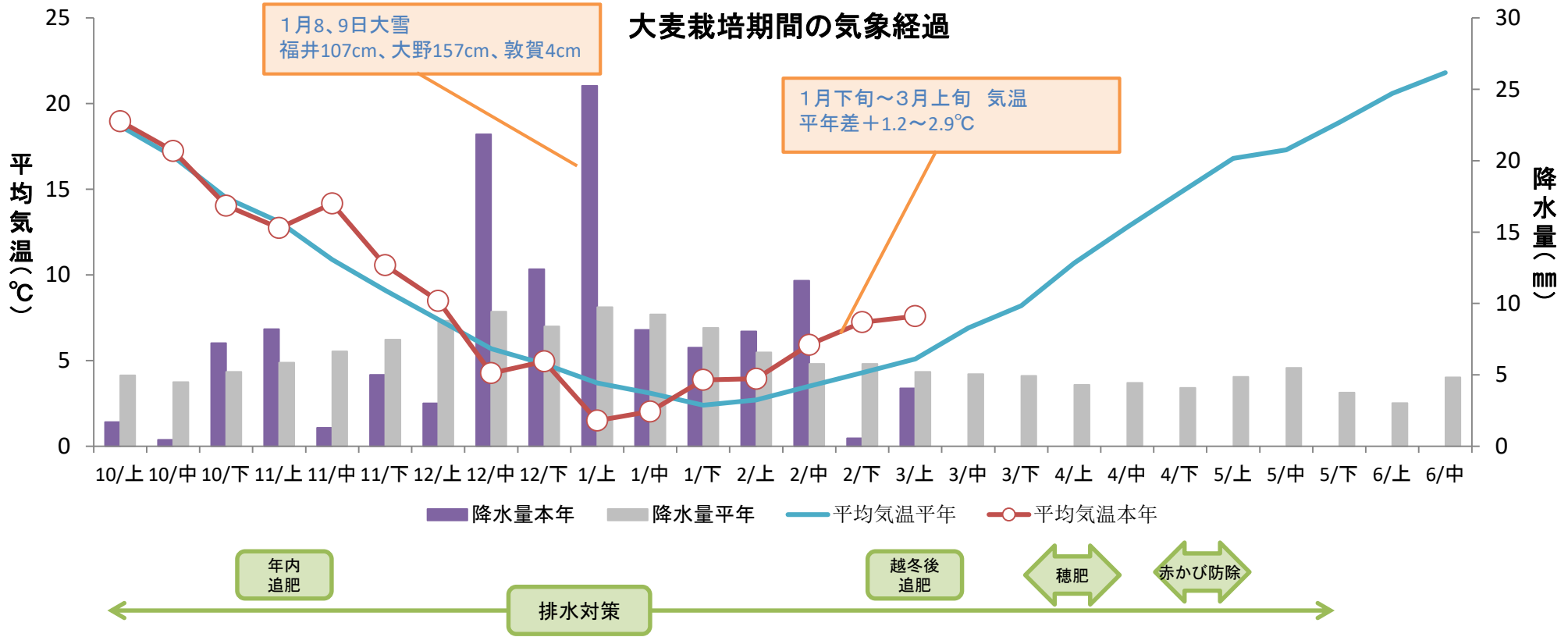
稲作情報 No.25

〔大麦栽培管理〕

水田農業レベルアップ委員会技術普及部会（農業試験場、福井米戦略課、JA中央会、JA経済連、主要農作物振興協会）

<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/inasaku/2020inasaku.html>

- ・排水溝に水が溜まったり、排水溝が崩れている圃場では、排水溝、排水口を確認して手直しをしましょう。
- ・生育過剰な圃場では細麦により収量が低下する恐れがあるので、追肥により精麦率を高めましょう。



- ・現在の生育は、分けつ数が多く、やや生育過剰となっている。
- ・出穂期は積雪の少ない嶺南および福井北西部では4月15日前後、積雪が多かった福井平坦部で4月25日頃、奥越地区では5月上旬頃と推測されるが気温が高く推移しているので、予測よりも早まる可能性が高い。

【今後の栽培管理】

作業	作業の注意点																																				
排水対策 確認！	<ul style="list-style-type: none"> 排水溝に水が溜まっていないか、溝が崩れて水が流れるのを妨げていないか確認する。 水が溜まっていたら、排水溝に落ちて水の流れをせき止める土をさらう、枕地に畝を作った場合には畝を切って圃場内部から排水口に直接繋がる排水溝を追加するなどして速やかに排水されるように努める。 排水口は必ず額縁排水溝の底面より下にする。一般に排水口は水稻の水管理用で高いことが多く、切り下げる必要がある。 																																				
越冬後の追肥 (分施体系)	<ul style="list-style-type: none"> 分施体系で施肥している場合には、消雪直後または平均気温が4～5℃に達する頃に越冬後追肥をする。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>播種法</th> <th>草丈(cm)</th> <th>茎数(本/m²)</th> <th>施用量(N kg/10a)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">条播</td> <td rowspan="3">20cm以下</td> <td>600本未満</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>600～800本</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>800本以上</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>20cm超</td> <td>—</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">散播</td> <td rowspan="3">20cm以下</td> <td>600本未満</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>600～800本</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>800本以上</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>20cm超</td> <td>—</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>			播種法	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	施用量(N kg/10a)	条播	20cm以下	600本未満	4	600～800本	3	800本以上	2	20cm超	—	2	散播	20cm以下	600本未満	4	600～800本	3	800本以上	2	20cm超	—	1							
播種法	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	施用量(N kg/10a)																																		
条播	20cm以下	600本未満	4																																		
		600～800本	3																																		
		800本以上	2																																		
20cm超	—	2																																			
散播	20cm以下	600本未満	4																																		
		600～800本	3																																		
		800本以上	2																																		
	20cm超	—	1																																		
穂肥 (分施体系)	<ul style="list-style-type: none"> 1回目の穂肥は茎立期に茎数や葉色を確認して施用量を判断し、幼穂長が7ミリになったら施用する。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>播種法</th> <th>3葉以上の茎数(本/m²)</th> <th>葉色(葉色板)</th> <th>施用量(N kg/10a)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">1回目</td> <td rowspan="2">条播</td> <td rowspan="2">500本以下</td> <td>5.5以下</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>5.5超</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">500本以上超</td> <td>5.5以下</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>5.5超</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">散播</td> <td rowspan="2">400本以下</td> <td>5.5以下</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>5.5超</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">400～600本</td> <td>5.5以下</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>5.5超</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">600本超</td> <td>5.5以下</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>5.5超</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">3葉以上の茎数は穂数と同等になる見込み</p>			区分	播種法	3葉以上の茎数(本/m ²)	葉色(葉色板)	施用量(N kg/10a)	1回目	条播	500本以下	5.5以下	3	5.5超	1	500本以上超	5.5以下	2	5.5超	1	散播	400本以下	5.5以下	3	5.5超	1	400～600本	5.5以下	2	5.5超	1	600本超	5.5以下	1	5.5超	0
区分	播種法	3葉以上の茎数(本/m ²)	葉色(葉色板)	施用量(N kg/10a)																																	
1回目	条播	500本以下	5.5以下	3																																	
			5.5超	1																																	
	500本以上超	5.5以下	2																																		
		5.5超	1																																		
	散播	400本以下	5.5以下	3																																	
			5.5超	1																																	
400～600本		5.5以下	2																																		
		5.5超	1																																		
600本超	5.5以下	1																																			
	5.5超	0																																			

【今後の栽培管理】

作業	作業の注意点												
穂肥 (分施体系)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2回目の穂肥は1回目の10～15日後に施用する。施用が遅れて止葉抽出期以降に施用すると、麦粒のタンパク含量が上がり硝子質粒率を高めてしまうので注意する。 	区分	葉色(葉色板)	施用量(N kg/10a)									
		2回目	5以下	2									
			5～6	1									
			6.6超	0									
穂肥 (一括肥料)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3月の莖数が600本/m²を超える圃場では細麦の発生による収量および品質低下が懸念されるため、4月上旬から4月中旬にかけて窒素成分で2kg/10a程度の穂肥を施用する。 												
赤かび病防除	<p>【防除時期、薬剤】</p> <p>(出穂期は全莖の40～50%が出穂した日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出穂後、開花期に平均気温が15℃以上で降雨が続くときに多発する。被害粒混入限度0.0%を超えると出荷できない。 ・ 適期に作業できるように防除の準備を進めておく。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>時期</th> <th>薬剤、使用量、使用時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td>開花期(出穂期の5日後)</td> <td>トップジンM粉剤DL 4kg/10a 収穫14日前 ワークアップ粉剤DL 3kg/10a 収穫7日前</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>1回目の7～10日後</td> <td>前 (上記以外にも適用薬剤はあります。病害虫防除だよりを参照。)</td> </tr> </tbody> </table>				時期	薬剤、使用量、使用時期	1回目	開花期(出穂期の5日後)	トップジンM粉剤DL 4kg/10a 収穫14日前 ワークアップ粉剤DL 3kg/10a 収穫7日前	2回目	1回目の7～10日後	前 (上記以外にも適用薬剤はあります。病害虫防除だよりを参照。)
	時期	薬剤、使用量、使用時期											
1回目	開花期(出穂期の5日後)	トップジンM粉剤DL 4kg/10a 収穫14日前 ワークアップ粉剤DL 3kg/10a 収穫7日前											
2回目	1回目の7～10日後	前 (上記以外にも適用薬剤はあります。病害虫防除だよりを参照。)											

【メールマガジン e農メール】

e農メールの登録については、こちらをご覧ください。
http://www.agri-net.pref.fukui.lg.jp/a_mail.html
 携帯電話ではQRコードで簡単アクセス



【現地の生育状況】

	地区	福井	坂井	奥越	丹南 (南越) (丹生)		二州	若狭	県全体
	調査日 (下段は昨年)	3/3 (3/3)	3/6 (2/26)	3/11 (3/3)	3/4 (2/23)	2/26 (3/6)	3/5 (2/27)	3/5 (3/2)	3/4 (2/29)
草丈 (cm)	本年	19.9	21.1	17.9	22.1	20.5	15.6	21.5	19.8
	昨年	26.0	26.9	20.5	24.3	27.3	25.0	30.7	25.8
茎数 (本/m ²)	本年	637	712	642	884	631	634	528	667
	昨年	512	888	718	591	852	550	457	614
葉色 (SPAD)	本年	45.3	47.4	34.6	44.0	36.5	44.7	45.2	42.5
	昨年	42.8	42.4	42.4	40.2	42.1	39.9	42.2	41.7

地区ごとの調査数、調査場所は年度ごとに変動があります。